

ワークショップ1 「炎症性腸疾患に対する新規治療薬の位置付け」

How should novel therapies be used for inflammatory bowel disease?

司会 緒方晴彦（慶応義塾大学医学部内視鏡センター）

松本主之（岩手医科大学内科学講座消化器内科消化管分野）

近年、炎症性腸疾患（IBD）の治療薬として、ブデソニド、ウステキヌマブ、ゴルムマブなどの薬剤が使用可能となり、今後も新規治療薬が登場する予定である。IBDの一部は治療抵抗性に経過するため、治療選択が増えることは患者への福音となる。一方で、臨床医にはこれらの薬剤を適切に使用する能力が求められる。そこで、本ワークショップでは、炎症性腸疾患に対する新規薬剤の位置付けについて、各施設のデータを持ち寄り討論してみたい。